

篠ノ井東福寺 小林龍子氏寄贈資料

凡例

- 本目録は、『長野市立博物館収蔵資料目録 歴史8』として「篠ノ井東福寺 小林龍子氏寄贈資料」を収めた。
- 本文記載は①資料番号、②表題、③作成者または差出人、④宛名、⑤作成年月日、⑥形態の順である。
- 原則として表題は原表題のあるものはそれを採り、ないものについては〔 〕を付して仮表題を付与した。また書簡、ハガキに関しては仮表題の後に（ ）を付して資料の冒頭部分を記載した。
- 作成者または差出人、および宛名は「差出人→宛名」とした。
- 作成年月日は和年号で記載した。資料から推定した年月日は（ ）を付して記載した。
- 本目録の作成および資料翻刻は、当館専門員宮澤崇士がおこなった。

解題

この資料群は平成22年（2010）に篠ノ井東福寺の小林龍子氏（昭和15年生まれ）より寄贈を受けたものである。龍子氏の父昇氏（大正4年生まれ）が家族に宛てた書簡やハガキを中心に、37点で構成されている。

小林昇氏は昭和17年（1942）に徴兵され、市川の野戦高射砲隊に配属された¹。昭和19年フィリピンに上陸したが、米軍機の攻撃に遭い高射砲は破壊され、山中へ撤退する際に歩兵部隊に転入した、と資料にはある²。引き続き資料には、昇氏はその後マラリアを発症し昭和20年（1945）7月上旬、部隊から落伍し行方不明になった、とある。文書群に残る死亡告知書（公報）では、昭和20年6月20日ルソン島ヌエバビスカヤ州カヤバにおいて戦死したものと認定されている³。

資料群に残る昇氏からの書簡類は19点（封筒のみの資料も含む）で、年代が分かるものについては昭和17年から19年にかけて、場所はフィリピンからの一通を除いては国内から発送されている。文面などから、昇氏の所属した部隊の駐屯地から書かれたものだと推定でき、多くに検閲印が押されている。文章の内容については、自身の近況報告は一言二言で、紙幅のほとんどは篠ノ井に残した家族、特に一人娘の龍子氏を案ずるものとなっている。また文章からは、残された家族の日々の生活の様子もうかがうことができる。

その他には、昇氏に宛てられたハガキが5点、昇氏が最後に所属した歩兵部隊の隊長が戦後小林家に宛てた書簡が2点、慰問用の写真が4点などとなっている。

太平洋戦争に動員された一般家庭の心情や暮らしをうかがい知る上で、貴重な資料であると考えられる。

なお、次頁より資料目録を掲載し、末尾に書簡類を翻刻したものを掲載した。

1 小林龍子氏からの聞き取りによる

2 資料番号9

3 資料番号3

資料番号	表題・作成宛名	年月日	形態
1	〔書簡〕(龍子は其の後様子は如何で居りますか) 昇 → すぎ・きの・龍子様	4月20日	便箋
2	〔書簡〕(早速く申上ます) 昇 → 妻へ	9月19日	便箋
3	死亡告知書 長野県民生部長 小林巳根夫(部長印) → 小林きぬ殿	昭和23年1月9日	紙
4	証明書(昇氏葬儀費用) 更級郡東福寺村長 吉澤義長(村長印) →	昭和23年4月14日	紙
5	〔綴り〕①(本日この悲報を差上げるにあたり) ②御遺族の参考 ①小林巳根夫 ②長野県民生部第一世話課 → ①御遺族様		紙
6	〔はがき〕(其の後御無沙汰致しましたが) 東京都江戸川区江戸川郵便局私書函第三号(モ) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和17年9月10日)	はがき
7	〔書簡〕(昨日妹の処より出した手紙も着いたでせう) 広島市宇品町海岸通石崎旅館にて 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ・きの・龍子様	9月25日	封筒に便箋入
8	〔書簡〕(永々の御無音何卒御許し下さい) 福井県遠敷郡小浜町玉前区 笹田松統 → 長野県更級郡東福寺村上組四三七 小林きの様	(昭和22年)2月19日	封筒に便箋入
9	〔書簡〕(突然の御頼り失礼の段平に御許し下され候) 福井県遠敷郡小浜町玉前区八五号 笹田松統 → 長野県更級郡東福寺村上組四三七 小林きの殿	(昭和21年)8月25日	封筒に便箋入
10	〔書簡〕(龍子の様体は何ですか) 昇拝 → 小林すぎ・きの・龍子机下		便箋
11	〔書簡〕(本年も後残す事数日と攻って居りました) (昇) →		便箋
12	〔封筒〕(中身なし) 東部第五十二部隊 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様	(昭和17年5月7日)	封筒
13	〔書簡〕(家の方は今頃は「かっこ鳥」が) 昇 → 母上様、きの・龍子へ	5月23日	便箋
14	〔はがき〕(春とは名のみ寒さきびしう御座います) 長野県更級郡東福寺村上組 片山よう子 → 東京都江戸川区江戸川郵便局私書函第一号 小林昇様	2月24日	はがき
15	〔はがき〕(其後皆様お変もなくお暮らしですか) 日原村 下平文子 → 更級郡東福寺村 小林昇様	(昭和17年6月18日)	はがき
16	〔はがき〕(一筆啓上致します二十三日出しの葉書拝見) 東京市江戸川区江戸川郵便局気付私書函第三号(カ) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和17年5月26日)	はがき
17	〔はがき〕(本日御葉書を拝見致しました) 東京都江戸川郵便局私書函第一号 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様	(昭和18年10月4日)	はがき

18	〔はがき〕(暫く御無沙汰致しまして) 千葉県木下町 木下郵便局気付東部第一九〇二部隊河西隊 青木先衛 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林昇様	(昭和17年10月9日)	はがき
19	〔はがき〕(出発の際には色々有難う) 小県郡西内村 鹿教湯つるや旅館内 小林すぎ → 更級郡東福寺村上組 小林昇様・きの様	(10月7日)	はがき
20	〔はがき〕(拝受いたし誠に恐縮に) 更級郡大岡村 池内美貞 → 更級郡東福寺村 小林絹子様	(昭和2□年8月20日)	はがき
21	〔はがき〕(暫く御無沙汰致しました) 東京市江戸川区 江戸川郵便局私書函第三号() 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様	(昭和17年10月5日)	はがき
22	〔はがき〕(大部御無音に過ぎて居りました) 長野県更級郡東福寺村上組 山木呉雄 → 東京市江戸川区江戸川郵便局私書函第三号(カ) 小林昇様	(昭和17年11月10日)	はがき
23	〔はがき〕(皆元気で居りますか自分も益々元気で居る) 東京市江戸川区江戸川郵便局私書函第一号 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様	(昭和17年11月8日)	はがき
24	〔はがき〕(母上様其の後御様体如何) 東京市江戸川区江戸川郵便局気付私書函第三号(カ) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子	(昭和17年5月17日)	はがき
25	〔はがき〕(御手紙拝見致しました其の後遠方御苦労) 東京市江戸川区江戸川郵便局私書函第三号(カ) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和17年6月18日)	はがき
26	〔はがき〕(隣家は今頃養蚕期に入った事でせう) 東京市江戸川区江戸川郵便局私書函第三号(カ) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和17年5月20日)	はがき
27	〔はがき〕(其の後母上様の容体は如何で居りますか) 比島派遣威第二一九〇部隊田中隊 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ 中野町 田中一雄殿		はがき
28	〔はがき〕(大変に寒く成って来ました) 東京市江戸川区江戸川郵便局私書函第一号 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和17年11月10日)	はがき
29	〔はがき〕(其の後すっかり御無沙汰を致した) 江戸川郵便局私書函第一号(夏) 小林昇 → 長野県更級郡東福寺村上組 小林すぎ様、きの・龍子へ	(昭和19年4月6日)	はがき
30	〔書簡〕(其の後皆変りは有ませんか) (昇) →		便箋
31	〔慰問写真〕(兵装を模した女性9人)		写真
32	〔慰問写真〕(兵装・消防服などの女性8人。寺澤正枝・片山より子・小林ふく江・岡田幸枝・清水千代枝・清水良子・小出みさを・山田富美。長野県更級郡東福寺村上組)		写真
33	〔慰問写真〕(女性10人、幼児1人)		写真
34	〔慰問写真〕(子ども、8人兄弟。田村初子・由子・兼一・岩保・由男・久・迪行・靖)		写真

35	[卷脚絆]		卷脚絆
36	奉公袋 (小林昇所持)		布袋
37	貴重品袋 (小林昇所持)		布袋

小林龍子氏寄贈資料

翻刻

(凡例)

旧字体は新字に改めた。原文は縦書きだが本巻掲載にあたり横書きとした。判読不明な文字は□とした。

資料番号1 昇 → すぎ・きの・龍子様

龍子は其の後様子は如何で居りますか。自分は隊に着て十七日より心配が蒙るせいか床に着て居り床の中で鉛筆を取る様な次第です。明日は完全に起られる事と思います。真度、兵に成って衣り始めての事で残念に思つて居ります。

家では心配して呉れるな、自分としても気には変りが無い。心配無用だ。

自転車は富ちゃんの処へ預けて来ました。もし自転車を家へ持つて帰った時には自転車の空気を抜て少しは保存上入れて置く事と。

龍子を連れて外へ出る時は龍子も色々の物を持たがる事は子供であるから当然の事である。

不自由をさせない様に（おきのに）小使を与へ出す様に願ひます。

今日からお祭りであるが、お宮へ氣をつてけ連れて行く事と。

又、旧篠ノ井の家へ行たら、「リンゴ」の苗を五十本位、今の中に頼んで置て呉れ。三年後の計画である。

人形を飾つて呉れましたか。箱の中にある（ナフタリン）を気をつけて。あれは大変に毒であるから、何処にでも置ぬ様にして呉れ。

切取った「くるみ」の木を日陰にして置く事と。

旧篠ノ井へも今度は寄らずに帰ったが、其の処宜しく伝へて下さい。

先ずは龍子を重々大切にして下さい。

四月二十日 昇

すぎ様

きの

龍子 へ

資料番号2 昇 → 妻へ

拝啓

早速く申上ます。先程は種々と御世話になった。

御陰様で途無事で帰隊致しました。安心下さい。

丁度、帰ると直ぐに又、休暇が出て東京の妹の処ろで今手紙を書いて居ます。ばあやも、一人で家に居つて、淋しく種々考て居た事だらう。

兎角、種々考へずに体に注意して下さい。そして又、石にかかり付ても俺の帰る日を待つて居て下さい。龍子には何物も不足の無き様に頼む。何んだか俺が立つ時に龍子が言った事が気に掛る。其れと云ふのは、父ちゃんが此度は長い間だ帰らないと、龍子と云つたら、龍子が俺あ三年も帰らないと死ん始末な

どと云つたもので、俺は気に掛る。其に付けても充分に龍子に注意して呉れ。其れに龍子が一人で淋しがるから人形を買って与て呉れ、直ぐにね。

此度の行先は人の話しに依ると何だか内地の様な話しも有り、又中支の様な話しも有る。何れ二、三日中に細詳な便りは出します。

妹の処ろでビールを頂き、気持の良い事は想像にまかす。時計も妹の時計で間合せた。安心下さい。

又次出が有つたら、野菜も二貫位は送られる様子す。旧篠ノ井でも頼で、送って呉れる様に、暇を見てで良い。

其れから俺が見てやろうと思って、つい忘れて来ましたが龍子の「プランコ」の縄が切れそうに成って居たが注意する様に。大原の父でも来た次出でなをしてむらう事と。

度々、お風呂をやって常に龍子体を清潔にして置く事。俺は此度の外泊に龍子の体を見て、驚いた。あかで真黒だ。衛生上良くない。其れが基で病気に成る事もある。

親は充分注意する必要がある。又、食物を見ると葱のおかずで御飯を食さて居るが、子供に刺げき生の物を食させるは悪い。金は何らあっても何にもならない。俺が度々言つて居るが「ずく」を出して篠ノ井でも行って、為めに成る物を買って食させる事と。俺は気に成る。お前達は常準に龍子の顔を見て居るから、氣にも成らなかもしらないが呉れぐれ頼むよ。

後で又書きます。

九月十九日

妻へ

昇

資料番号 6 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ

拝啓、其の後御無沙汰致しましたが変りは有ませんか。小生も益々元気です。御安心下さい。

今頃は蚕も忙しきころと思います。蚕作は何であるか。

身体に無理をせぬ様に注意して働て呉れ。忙しき故、隙が出てくると思うが龍子を充分気を付けて頼む。

今度便りを出す時には変った処に注意の事。 草々

資料番号 7 小林昇 → 小林すぎ・きの・龍子様

昨日、妹の処より出した手紙も着いたでせう。

此の手紙は未だ常に居る処で出します。手紙を母にも良く読んで上て呉れ、頼むよ。俺が此度の外泊には龍子に何でも買って上げます。本当につまらなかった。残念でたまらぬ。本を買って呉れるなどと、うそを言って誠に龍子に申訳ない。其のかはり、お前達が俺にかはって直に何処でも行って買って上て下さい。龍子の好きなものを。龍子に品物を渡す時にも父ちゃんが買って呉れたのだと行って与へる様にお前達に頼むのは真度不安心だが、兎角俺の頼みだから呉れぐれもお願する。

其れから、お前も此度は今末より一層に堅く、しっかり頼む。俺は其れだけが本当の心よりの頼みだ。

堅く約束をしたよね。母上を大切にする事も、呉れぐれも頼む。

俺も母上が何か達者で暮す様毎日神に祈つて居ります。尚、龍子やお前の事も三人を元気で暮す様、諸神様に祈つて居ります。頭の中には三人の事が一秒も忘れた事は無い。頭に常に焼付て居ります。お前達も其の気持を良く察して下さい。

龍子に対しては俺が何時も家に居て、何でもやらせる様に。又、何でも買って呉れる事と。

此の頃、龍子が片車がしたので俺の頭は後で見たら砂だらけ。おかしいでせう。真度く自分の子供は目の中へ入ても何でも無いね。可愛いからな。

俺もあれから東京で二日も見付けて見たが、傘が無い。心残りがする。かへって舍田の方が有ると思う

から長野市でも行って見たら有でせう。直ぐに繭でも出したら三人で、お祈りながら行て見て呉れ。俺も妹の利江にも見付る様に、又珍らしい物が有ったら買って送って呉る様には頼んである。
其れから大原の父の処にも家の修理に付ては今回、手紙を一緒に出した。寒く成らない中に頼むと書いた。

許して下さいね。俺も家に居る時は考へ居ったのだが何いに良い時期が無く真度く済みません。
種々と書きたい事は沢山あるが、又後で書きます。

最後に呉れぐれも龍子を大事にして呉れ。

九月二十五日

昇

妻へ

是が最後の便りと思ふ。家内の皆様の長く何処までも暮す様御祈りして筆を止む。
金も五十円送りましたから、龍子服や好なものを買って上て呉れ。
靴下も此の程見れば無が直に買ふこと。

資料番号8 笹田松統 → 小林きの様

拝啓

永々の御無音、何卒御許し下さい。

小生、漁業の関係上北海道方面へ転々と昨年末より出張致し最近帰省、初めて御書面に接し何と御詫びしてよいやら、時期の遅れました事、さぞ恨み御立腹の事と存じますが以上の様な理由にて平に御許下さい。

生活困難なる此の世の中に女手のみの生活は、さぞ御不自由な事と御同情申上げます。

大黒柱とも頼れる御主人の消息、御心労の程、言葉で云ひ表はせないものがあります。

□て名簿に記載してないないのは生存してゐると云ふ確報もなく、戦死されたと云ふ確報もないからだと存じます。

前便で申上げました通り、落伍（しかも夜間）されて夜が明けてから搜索致しましたが発見する事が出来ず任務の為め搜索を打ち切り出発致しましたが、その後会ふ人全ぶ部隊毎に聞ひて見ましたが遂に判明せず行方不明となって居たのであります。

密林深山の中、道なき山をしかも夜間方向すら判らない場所に於て部隊すら暗い深山とて前と後方と連絡がつかず迷ひさうな状態で落伍でもされたら全然判らない有様でした。

二日も三日もかかって発見されるまで、なぜ搜索して下さらなかったのかと御恨みになるかも知れませんが、部隊は任務を持って居ります。何日の何時までに何処へ行って陣地に着けと上の人から云はるれば、遅れない様に行かねばなりません。私達としても実に戦場に行けば搜索をすれば發見出来ず任務の日時はせまって来る、苦しい立場にあるわけです。

恐らくは私は戦死されたものと存じます。

落伍されましたのが昭和二十年六月二十七日夜でした。

尚、小林君は最初他の部隊でしたので、終戦後書類はもとの高射砲部隊で整理して居られるはずです。
兵庫県城崎郡新田村塩津一五〇、藤澤武（元小隊長）に一度問ひ合わされては如何と存じます。

私の判断と致しましては恐らく落伍されて戦死されたものと思ひます。

戦場の事とて落伍され二日も三日も搜索出来ない事情は何卒、御理解下さる様御願ひ申上げます。

万一帰って来られない場合には前申上げた日付を以て命日とされては如何と存じます。

小生も復員後生活の為め種々苦労を重ね生活費に追はれて居ります。

女手のみの不自由なる御生活、さぞやと御同情申上げます。

くれぐれも、お返事遅れました事を深く御詫び申上げます。

二月十九日 笹田松統
小林きの様

資料番号9 笹田松統 → 小林きの殿

拝啓

突然の御頼り失礼の段、平に御許し下され候。

□で小生今度、比島より帰還せし小林昇君の隊長を致して居りました、旧笹田大尉で御座います。小林君につきましては最初、高射砲隊に在籍して居られましたが、歩兵第一線部隊の将兵、大半戦死或は戦病死致し、入員少なくなり且、高射砲隊も米空軍の爆撃砲撃により砲を破壊され或は山奥へ逃げ込むに砲は運搬出来ず人間のみ逃げ込みましたので、之等砲を持たざる部隊より小生の歩兵部隊へ補充として高射砲隊より転入小生の中隊へ昭和二十年六月頃到着、共に元気にて働き居りましたが、小林君にはマラリヤに掛り時々発熱居りましたが、既に御存知の通りの敗け戦さ。敵に包囲され、山奥へ山奥へと密林の中を転進、確実な日は忘れましたが、七月上旬敵に部隊が包囲され部隊の大転進、当中隊は軍旗を棒じ大隊に先んじて転進を開始。夜間行動に移り行軍中、小林君にはマラリヤの為め発熱、敗戦の山奥とて病院なく休むとて所なく、残して行けば匪賊にやられる心配多分にあって中隊の後尾を元気を出して続行中、深夜或る目的地に付き人員を検査せし所、小林君落伍して居らず、直に数名の者に命じ今来たものすごい密林谷間を搜索せしめましたが敵の為め大声にて呼ぶ事も出来ず、遂に発見する能はず、一日中隊を休止して再び昼間搜索せしめましたが、発見出来ず中隊は任務の為め不本意ながら再び命令の時間に遅れまいと悲しい出發を続行、途中他の隊の者には種々聞くも密林、深谷、道なき深山とて遂に判明せず、生死不明として現在迄致して居りますが、或は落伍して匪賊にでもと存じて居ります。

部隊は山奥にて食糧に欠乏、芋ばかり喰って居りましたので、将兵の体力衰へ山奥の土民を襲撃して食物を取って居た様な有様、且、マラリヤ患者続発、取るに薬なく休むに所なく、野戦病院有ってなきが如く道無き深山密林中を食を求めて転々と移動してゐたあはれな戦さでした。戦死より戦病死の方が遥かに多く、小生も九死に一生を得てふらふらになって帰還し、遺族の方に一日も早くと思ひ、一筆乱筆失礼致しました。

全に云に難き事と存じますが、恐らく落伍致し谷間に到り、水でも飲み上るに気力なくその倒れ、或は匪賊の為め最後を遂げられたか未だに判断に苦しんで居ります。

何卒小生の不行届の事、重ね重ね御詫び申上げますと共に、敗戦の実情、米軍の収容所へ入って以来各人のかかる連絡の出来なかった事等、御推察下さいまして、生きかへった小生の心中も御推察下さる様、御願ひ申上げます。

取敢へず第一報、小林君の事情御報告まで。

八月二十五日 笹田松統
小林きの殿

資料番号10 昇拝 → 小林すぎ・きの・龍子机下

龍子の様体は何ですか。自分は四時二十分、城端駅に到着、至極元氣です故御安心下さい。今晚は城端の善徳寺にて宿泊する事に成りました。出発の時は種々取紛れて居て、言ふ事もわすれて居ましたが、おきのは何事でも旧篠ノ井の父と家の母とに相談してやる事です。尚母上に申上て下さい。自分が出發

する時に、おきのに、少々の小使をやるのをわすれたから、母上に小使を頂き、龍子に不自由を感じさせない様にして下さい。尚、衛養食もたべ元氣で働くが、此の分では大した事は無と思ひます。遠分、便りは出来ないと思ひますから、此の上は龍子、母上、おきのと三人で氏神様初め八幡の神社に詣りをして下さい。自分は元氣で働きます。龍子も自分の出発の時、気分が悪かったので心配になります。元気に成る迄で、利江ちゃんと良く見て下さい。

又、龍子の元気の顔を写真を取って送って下さい。尚龍に何でも書かせて一緒に頼みます。種々忙しかった為め、家の裏の（くね）もこさいるのを忘れましたが、篠ノ井の父を頼み、杭を打てこさいて下さい。尚、釜戸もぬり、其の前の処ろに板を打て、あぶなくない様にして下さい。尚、手間不足ですから、ゐろりに龍子を落さぬ様注意を良くはらう事。仕事に気を取られないで。もし龍子が泣く様な事があるなら仕事は後でもしる様。又、龍子は元気が良いからもし龍子が遊びに出る時は母上も一緒に出掛けて下さい。是れは本当に頼みます。書たい事は沢山ありますが、母上様を泣すばかりですから此のくらいで止ますが、御厨村上布施の山崎様へも話をして下さい。

其れから青木栄一郎様の処も、一八円五十銭支払って下さい。尚、更級郡耕地協会の話しも役場と相談するもよいが又、満州より御□（註：弟カ）様が帰いたら相談するもよいと思います。龍子を安じる事になれば自分も本当に困って居ます。此の相談もしてもらいたい事は皆、龍子の為です。

龍子にピアノを買って与へて下さい。長野市にあると思ひます。

裏田にまひた種子もはへない処があったら又まひて下さい。

最後にくれぐれも仕事より龍子を良く気を付けて下さい。川は（註：「川は」2文字朱線）特に注意して下さい。

先は後便に譲り以上は頭に浮んだ何んです。良く感て読んで下さい。さようなら

小林すぎ

きの 机下

龍子

昇 拝

資料番号11 (昇) →

本年も後残す事数日と攻って居りました。

其の後は長ら御無音致しく誅に申訳有ません。

相変家中は皆な元気との事、本当に心から喜んで居ります。次に自分も至極元氣で服務致して居ります故、御安心下さい。

尚、此処に新しきニュースを知らせます。而し旧篠ノ井へ行く次出が有ったら、宜しく伝て呉れ。其れは、中津村今井の清水利雄君も、自分と同じ処で頑張って居ります。何時最近に知ったので其れからは毎日の様に顔を合して居り、煙草などが無と言ふもので、自分の吸ふのを分てやる事が度々に有ます。清水も自分が居るので、とても元気な顔色をして居る。其の事は此の位にして置て、次に、家の事にうつりますが、秋仕事も終り最早年取りの準備にて、何かと気忙しき事でせう。其の中には自分も正月早々外泊が有る予定で居ります。

其の時には、餅や酒を沢山に準備して置て下さい。其れを樂んで居ります。出来得るなら甘酒も造て置いて願たい。今頃は農家には甘い物が無いから、龍子にも度々甘酒でも造て食る様に。

食る物は此の位にして、

次に申上のは、龍子の衣類の事で有るが、今時、小供のセーターも手に入る事は不可能と思ひますから、もしも自分が家に居る時に居った青いジャケツが二枚あるから其れを破して造って呉れては何と思ますが、兎角、美麗には出来ないと思ふが工夫をして是非とも仕上る事と。手紙を以て固く約束を致します。

龍子にわ食物は嗜む物を造ってやる様に麺類なども度々に食させる事と。特に頼む。

又此処に固く云つて置くが、此の事は良く耳をほって聞く事。其れは今春の如く、病氣の無き様に。是れは呉れぐれも注意して呉れ。又お前も大して丈夫の身で無から、無理をしない様に充分に注意して仕事をする事と。

其れから、自分の事も心配して居てくれるが、今年は昨年に比して氣候に馴れたせいか、寒氣も差程に感じませんが昨年の通りにズボンやシャツは昨年通りの品物を、至急に送て願ひ度く待つて居ります。尚又、是れは話しわ變りますが、此度の外泊の時には旧篠ノ井から味噌漬をむらって来て居て下さい。種々と書たい事は沢山にあるが又、外泊の際に話す事に致しませう。

資料番号13 昇 → 母上様、きの・龍子へ

一筆

家の方は今頃は「かっこ鳥」がかっこかっこ泣て居るだろ。隣家では春蚕の掃立が終ったでせう。家の屋敷の葉は何うしましたか。早い処ろ他人に渡す様にして呉れ。尚葉を取った後は、切株が有るから、龍子が畑に出て遊ぶ事もあると思ふ。十分に注意して下さい。

又、手間不足なる故、人を頼んで葉取を致す事、麦の根寄は出来ましたか。□（註：安カ）庭の叔母様さ御願ひする様。

リヤカのタイヤーハ修善するより、思切て新らしくタイヤーヲ掛て呉れ。

耕地協会の方より何か話が有ったか。

二十一日に佐久の兄貴又家よりの便りを受取りました。龍子も達者で遊んで居ると聞き、一安心して居ります。

佐久の便りに依れば、旧篠ノ井母と岩村田の鼻顔稻荷神社へ御詣りに行たとの事と、何より気が付きの事と思ひます。

度々、賀井温泉へ三人で行く様にして下さい。龍子の頭を日常、清潔にして置く事と。

旧篠ノ井の父母と五人で最近の写真を取つて送つて呉れ。

今頃送り返した布呂敷を一枚を送つて下さい。

時々家の様子を知らせて下さい。

三人共体に気を付ける様、仕事に一心にならづ龍子を頼む。

先は又、後便に譲り

五月二十三日 昇

母上様

きの

龍子 へ

資料番号14 片山よう子 → 小林昇様

拝啓

春とは名のみ、寒さきびしう御座います。

すっかり御無沙汰申上げまして申訳御座いませんでした。

其の後もお変りなく日夜軍務に奮闘の御事と存じ上げます。

お陰様にて私達も決戦下の銃後をしっかりと守つて居ります。

こちらも今年は雪が多く、四方の野山は真白でしたが今朝から春雨となり、しとしとと降つています。

夕方頃はみぞれ雪となり道などはおしるこの様です。

今日昇さんの家の方へ行くと、りう子ちゃんの大きい声がするので、みているとのかる道をお母さんの

後を、おつてついて行くとさわいでいるのです。大きいかさをさして行きたいけれど道はわるいし一生懸命でお母さんをよんでいます。家の中ではおばあさんが、りう子やりう子やとよんでいるけれど、やだやだと言って、とうとうお母さんのまけになり、行きかけたのを又もどり、手を引いてつれていきました。では又。

資料番号15 下平文子 → 小林昇様

其後皆様お変もなくお暮らしですか。一寸お伺ひ致します。

何分御多忙の事とお察し致して居ます。家でも忙しい為めつい御無沙汰致して済ませんでした。いよいよ麦苅の時気となりまして忙しいですね。

時□頃ろお父様がお手伝へに行たらよいでせようか、一寸お知せ願ひます。

もう少しで田植も済ます。□へすみ次第へ参りたいと思って居ますから、一寸日をお知せ願ひます。サヨナラ

資料番号16 小林昇 → 小林すぎ様・きの・龍子へ

一筆啓上致します。二十三日出しの葉書拝見致しました。東京叔父の住所も知りました。尚此度の便りの時に親類全部の住所を知らせて呉れ。而し近い処は既におぼいて居ます。庭の白いつつじも吹たであろう。

龍子は眠て居るばかりで何を言て遊で居るか一寸も解らない。附近の川に良く注意を払って下さい。

今年はブドウの芽が出ましたが龍子の口に入りそうですか。柵を作る時には旧篠ノ井の父を頼んでやって呉れ。

母上、御身を大切にして下さい。

資料番号17 小林昇 → 小林すぎ様

拝復

本日御葉書を拝見致しました。其の後皆な元気の趣き何より幸と思ふ。

自分も至て元氣で任務に邁進して居ります。

楽しみに待った此の祭典も雨降祭の様子。御氣毒でした。

取入時期も近き頃と思ますが充分、身体に注意して働て下さい。

上庭の家は二十日悔状を出して置きました。安心して下さい。

其の礼状を頂て居ます。

資料番号18 青木先衛 → 小林昇様

拝啓

暫く御無沙汰致しまして其の後御貴家御一同様には御変り有りませんか、御伺ひ致します。自分も御陰様に元気旺盛に軍務に精励致し居ります。過日は大変御世話様に成り誠に有難く厚く御礼申上げます。此の度、表記にて国土防衛の為軍務に奮励致し居ります。他事乍ら御休心下さい。如何ですか。此れから農作物の取入にて大変ですね。御推察致します。

先ずは御礼傍に御一同様の御健勝を御祈申上げます。 敬具

資料番号19 小林すぎ → 小林昇様・きの様

拝啓出発の際には色々有難う。道中無事に十一時に着きましたから御安心下さい。御連の方々と楽しく入浴して居りますから御安じなく。又りう子さんお大切にして下さい。るす中お願します。

十月七日

資料番号20 池内美貞 → 小林絹子様

拝復この（註：欠落）□□拝受いたし誠に恐縮に存じます。（註：欠落）は一名國のため尊い身命を捧げられま（註：欠落。「ことに」が入るか）御遺族の方にはどんなに御力落しの御事と御慰め申す言葉も御座いません。心から敬弔の意を表する次第であります。それにつけても、御遺子様御健かに御育ちになられておりすることを承り今後益御自愛の程御祈り申上げます。長野で善光寺前に偶然御夫名の御位牌に拝することが出来ましてほんとうに仏の御ひき合せの幸かと存じました。二十四年前四年生のとき私の受持ちの生徒でありましたが当時のことが深く思ひ出されて感慨無限のものがあります。

資料番号21 小林昇 → 小林すぎ様

拝啓 暫く御無沙汰致しました。其の後家内一同には御変り有ませんか。

自分も益々元気で居ります。御安心下さい。

最早稻の取入時期も来ましたが準備が出来ましたか。

又大原の父を頼む事にして呉れ。

仕事も□々と忙しく成る故、龍子に良く注意する事。

資料番号22 山木呉雄 → 小林昇様

大部御無音に過ぎて居りました。其の後お変りなく御励みの事と存じます。多忙だった秋も大方終り只掛稻が寒々と残されて居ります。今朝はアラレが降り洗面器なぞ薄氷が張りまして冬近きを思はせます。昨日母が篠ノ井へ行く時おりしましたら、田の方も終ったとかで皆様とてもお元気だったさうです。只単があたけて大閉口とかハハハ・・・。今日は松代の恵美寿講で朝から花火がめづらしく景気よく上って居ります。では向寒の折御身御大切に。私共元気です。父母よろしく。

資料番号23 小林昇 → 小林すぎ様

拝啓 皆元気で居りますか。自分も益々元気で居る。安心して呉れ。

尚葉書を出す度に忘れて居ったが、大原の家へ悔状を十月二十六日に出して置たから安心して下さい。

最後に皆、身体に注意して呉れ。

先は後便に譲る。

草々

資料番号24 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子

前文略します。

母上様、其の後御様体如何で居れますか、御伺ひ致します。

龍子も毎日元気で遊んで居りますか。

拙者も至極大元気です。龍子が遊びに出る時は是非一緒に出掛る様願ます。

尚、龍子が気分変りの時は直に診断を受けて下さい。おきのも身に気を付て働く事。仕事に気を取られず、龍子を良く頼む。龍子の食物に充分注意すると共に栄養分も取り三人元気で過す様拙者も何が何でも遺抜氣概である。

不在中は気付て頼む。

資料番号25 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ

拝啓 御手紙拝見致しました。其の後遠方御苦労でありました。

尚、又去る十四日に（高治、利江）の二人に面会を致しました。家の方よりも宜しく手紙を出す様願ひます。

家内一同無事との様子にて自分安心して軍務に誠心誠意励んで居ります。

尚、利江と種々御話しを致し置きましたから、何又利江の方より手紙も行く事と思ますが、其の通りにする事。

龍子も一人で遊ぶ様子であるが、裏の方の池に良く注意して、一人で遊ばせぬ事と。

又一人で田圃へやらぬ様にして呉れ。遊ぶ時は母上様と一緒に出る様願ひます。

最後に梅雨の時期なる故、皆な体に気を付ける事。

資料番号26 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ

拝啓、前文略します。隣家は今頃養蚕期に入った事でせう。当家は何うしましたか。

龍子も日増し口が廻る様に成だらう。

今は気候が一番変動の有る時です故、衛生に最も注意して下さい。

戸隠の武井行の荷物は何うなったか。清水成幸様の住所を知らせて呉れ。

尚、自分が忘れて居ったが、龍子の雛人形及び俺の服に「ナフタリン」を入れ、良く仕末をする事と。母上様元気で。龍子を頼みます。

資料番号27 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ 中野町 田中一雄殿

前略 其の後母上様の容体は如何で居りますか。御安じ申上ます。

自分も其の後益々元気で任務に邁進致して居ります故、御安心下さい。

家内は変った事は無か、詳細な返事を下さい。

龍子は何をして遊で居るか。又、正月も間近に来る事でせうが、御餅を喰過ぎぬ様に注意して呉れ。

御報事の鐘が耳にします頃ですね。本年の稻の収穫は如何であるや、状況を知らせて呉れ。

家屋の修理は出来たかね。大原の父が来て呉れた何か。而し来ず出来て居らねば至急する様に。

田畠の小作料、又田畠の貸の方も常に整理して置く事と。十玉堂へ貸して置く。敷地も良く母より聞いて置く様に。

親類も一通づつ便よりは出したが、又家よりもよろしく伝へて下さい。

来春は鶏も新に入換て子供の栄養を取る様に。

其れから梨やリンゴの鉢定は旧篠ノ井の父を頼んでやる様に。

又今の中にリンゴの苗木も三十本程、頼んで仮植して置く事と。

今年は野菜の出来は如何か。篠ノ井へ頼で迄も充分に冬期間に置いて栄養を取り、又働く様にして呉れ。

(註：欠落) 宮様への御参りは毎月御願ひ致します。又何れ便りは出しますが、何時

(註：欠落) 事であるが、龍子だけには不自由を感じさせぬ様に又、何でも買って与へて呉

(註：欠落) 良く言って置くが俺の□ (註：跡カ) は龍子で立派に相続して行く事と。頼む。

(註：欠落) に注意して呉れ。新しいニュースを知らせて下さい。
先づ書た事を実行が第一。

資料番号28 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ

大変に寒く成って来ました。其の後皆元気で居り何よりの事と思、自分も其の後相変わらず元気で居る。
写真も受取りました。安心して呉れ。
尚、粉干の事で有るが粉は今の処は自家米だけにして置く事。後は又来春にする様にして呉れ。
向寒の折りより龍子に注意して呉れ。
先は後便迄で。

資料番号29 小林昇 → 小林すぎ様、きの・龍子へ

其の後すっかり御無沙汰を致した。別に変った事は無いが、小兵も御陰も益々元気です。放念下さい。
彼地は暖も日に増し、子供の遊びには好都合の時期に成って来た頃でせう。
今年は大部雪が多った模様で、昔から大雪は豊年の基とか申すが、本年の麦作の発育は如何か。
大原の寿津須報事の件は何う成ったか。是れから行としたら、俺からも呉れぐれも宜しく申したと云つて呉れ。俺は別に書状は出ない考で居る。
先は暖き時期とは云ものも、特に母上の病身に注意して下さい。
子供の衛生にも注意せられたし。 机下

資料番号30 (昇) →

拝啓
其の後皆変りは有ませんか。自分も其の後元氣で軍務に奮闘致して居ります。安心下さい。
月日の経るものは早もので新年も明たばかりと思って居る中に早や三日を過ぎました。
龍子も新年取って四歳に成り日毎に大きくなる事だらう。
家の附近には雪も有る事と思ひますが、自分の方は未だ一度も雪を見ません。
寒も是れからだと思うから龍子の衛生に充分に注意して風邪などは引かせぬ様に頼む。
母上も寒の折り体に気を付て下さい。母上の病気も一、二月が最も危険の時期であるから特に大切にして下さい。